

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 日宝道修町ビル3F
 06-6232-1095

南スーダン最新取材報告に50名参加

4月19日(木)アイクルの部屋の隣の308号室で大阪損保革新懇20周年記念イベント第二弾として、『南スーダン最新取材報告とアベ改憲問題』講演会を開催し50名が参加しました。志賀守孝事務局の司会で始まり、西谷文和さん(フリージャーナリスト・イラクの子どもを救う会代表)が講演しました。私たちが主催した西谷さんの講演会は、2004年5月に米軍によって罪なき人々が殺された『イラクの現実』が初めてで、今回で5回目です。西谷さんは2月26日にアフリカ・南スーダンから帰国、最新の取材内容、安倍改憲の狙いなど詳細にわたって講演しました。

講演終了後、恒例の手作り料理を囲んで懇談。参加者から「危険地域への訪問に際しご家族の反応は？」など多くの質問がだされ、西谷さんは丁寧に答えていただきました。「イラクの子どもを救う会」のカンパを訴え4万円が集まりました。

西谷さんは4月28日から再度南スーダンやアンゴラなど幾つかの国を訪問しています。

フリージャーナリスト 西谷 文和 さん

【 講演要旨 】

南スーダンへは2月に行ってきましたが、4月28日からまた行きます。自衛隊の基地があったところも取材してきました。スーダンは1956年にイギリスから独立しましたが、北側のアラブ人が1級市民で、南側の黒人は2級市民の扱いを受けます。黒人たちはそのような中で、スーダン人民解放軍を結成してたたかい、2011年に南スーダンとして独立しました。

北のスーダンが政府軍、南のスーダンはゲリラ軍でした。普通に考えると政府軍が勝ちますが、でもスーダンでは例外的にゲリラ側が勝ちました。なぜか。アメリカから武器や資金が黒人側に流れていたからです。石油利権がその理由です。今も油田の取り合いが続いています。独立したら今度は黒人たちの間で内戦が始まりました。

南スーダンに派遣された国は？

このように大変危険な国ですが、昨年5月まで自衛隊が行っていました。マスコミは言いませんが、軍隊を送っていたのは先進国では日本と韓国だけです。アメリカはイラクとアフガニスタンに延べ200万人の兵士を送り込んで、



講師の西谷文和さん

そのうち四分の一の50万人がPTSD、鬱とかドラッグ中毒、アルコール中毒になっています。アメリカもヨーロッパも、もう地上部隊を送り込みたくない。でも、そこに石油資源がありますから、命令されてNOと言えない国、日本と韓国だけが行かされたわけです。

安倍内閣はできるだけ自衛隊を海外に出して既成事実を積み上げたい。ですから、日米の思惑が合致して自衛隊員が危険にさらされることになったわけです。

今「日報隠ぺい問題」が生じています。“戦闘”でなく“衝突”と言っていたのは何故かということ、戦闘が起こっているということになると、国会で問題になって、帰ってこいということになる。だから嘘をついていたわけです。森友・加計問題と良く似た構図です。(P・2へつづく)

(P・1からのつづき)

自衛隊の宿营地から100メートルぐらいの所に国連のビルがありました。国連のビルは戦車攻撃で瓦礫になっていました。自衛隊の宿营地をはさんで、空港とトルコ人が住んでいたビルがありました。空港には政府軍がいてトルコビルを反政府軍が奪いました。そのため、自衛隊宿营地を挟んで戦車砲などが飛び交うなどの激しい戦闘が、2016年7月8日から10日の3日間あったこと、宿营地内に着弾したことや負傷者がでたことが日報に記載されています。自衛隊員は大変危険な目にあっています。PTSDで、帰国してから2人の自衛官が自殺しています。

シリア内戦の原因

次に、シリアの話です。内戦が起こってからシリアに4回入っています。シリアは南スーダン以上に恐ろしい状況です。シリアは中東のほぼ真ん中で、北はトルコ、東はイラク、南はヨルダン、西はイスラエルとレバノンに取り囲まれています。

1970年にハーフィーズ・アル・アサドがシリアで軍事クーデターをおこし、アサド政権が誕生しました。以降軍事独裁政権が続き、現在の息子のバッシュアール・アサドが父の死亡後その政権を世襲で引き継ぎました。

アサドはイスラム教のアラウィ派、人口の1割ぐらいです。国民の多数、8割ぐらいは、イスラム教のスニ派です。独裁政権を嫌った国民が7年前にデモをおこないました。アサドはデモをした人々を徹底的に弾圧・殺害したので弾圧を受けた人の中から、武器をもって立ち上がる人々が出て内戦が始まりました。

少数派のアラウィ派が政権を握ったのは理由があります。フランスが植民地の占領から退く時に、わざと少数派のアラウィに武器を渡して軍隊を作らせてから出ていきました。

軍隊を持ったアラウィ派がクーデターを起こして政権を握りました。少数派が政権を握ったわけですから政治が安定しないわけです。逆に言いますとイギリス、フランス、アメリカ、ロシアはわざと少数派に政治をさせることでその国をコントロールしやすくしていたわけです。

イスラム教、キリスト教だから憎しみあっているとか、民族が違うから憎しみあっているという事はありません。宗教や民族が違ってみんな仲良く暮らします。何故憎しみあいが起こるかという、欧米の列強国がそうさせたからです。

シリア内戦の犠牲者は現在は50万人を超えているのではとされています。最近では毒ガス兵器も使われています。

戦争は1回始まると止められません。戦争は始める前に止めないといけない。だから外交は大切です。今こそ日本は憲法9条を基にした平和外交を大きく広げる必要があると思います。

〈 ご案内 〉

損保代理店シンポジウム

**6月8日(金) PM6:30~
エルおおさか南ホールにて**

(大阪府立労働センター南館5階)

参加協力費：1000円

この1年代理店の声を国会に届けてきました。あらためて損保代理店の現状と未来を考えます。



講演後の懇親会にて

**大阪市なくしたらアカン
府民のつどい**

5月17日(木)

PM6:45開会

エルシアターにて
(エルおおさか大ホール)